

2-1 五軒町エリア

五軒町エリアは神田川沿いの平坦な低地に位置しています。江戸時代からほぼ変わらない、直線道路がつくり出す整然としたまちなみが特徴です。大正時代以降には、大規模印刷工場だけでなく、中小の印刷工場の集積が進みました。また、近年ではマンション等の建設も目立つようになってきました。エリアの東側には大規模敷地が多くあり、江戸時代の馬場の跡地を挟み、西側には比較的中小規模の敷地が多くなっています。



景観特性

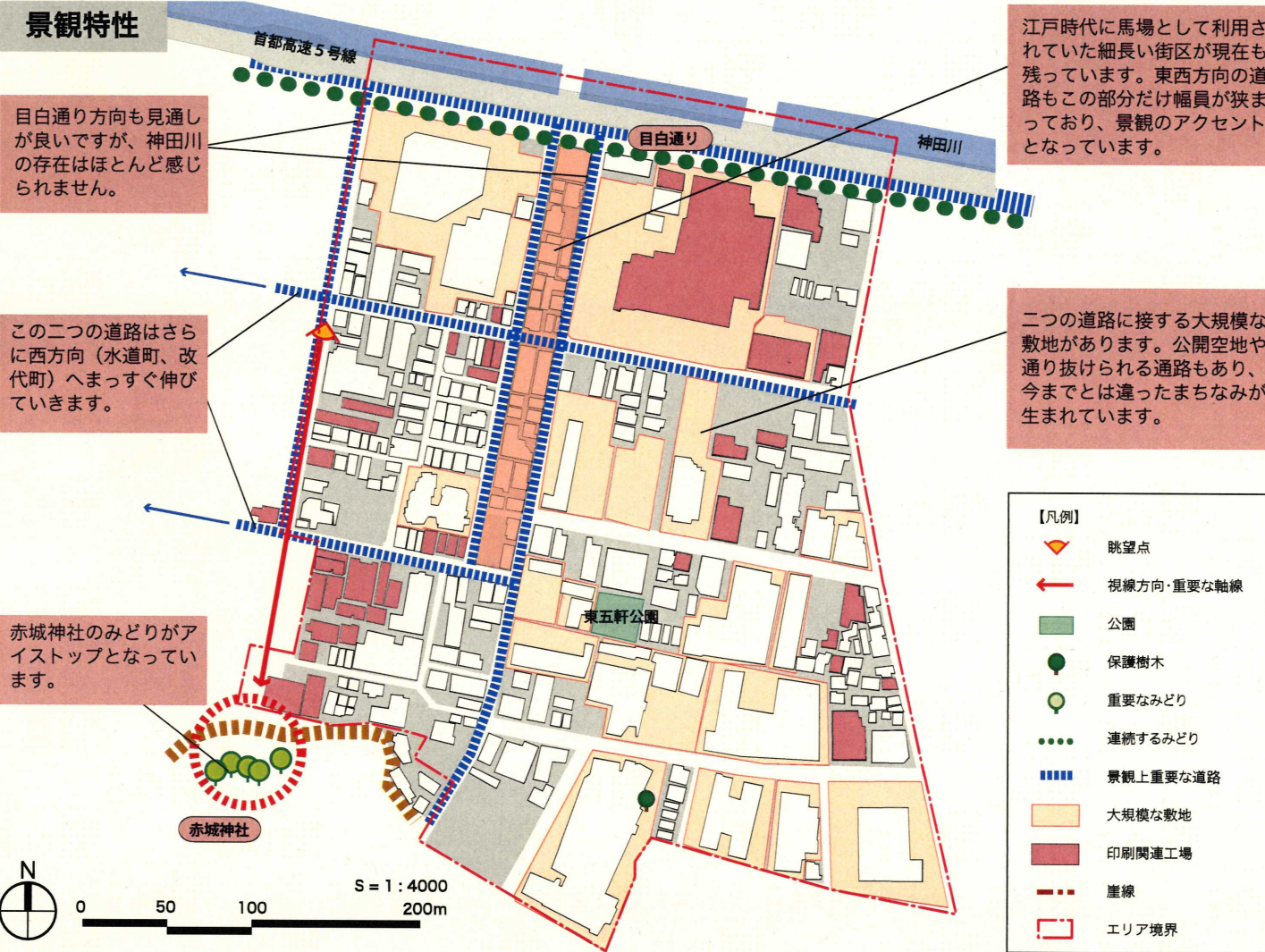
目白通り方向も見通しが良いですが、神田川の存在はほとんど感じられません。

この二つの道路はさらに西方向（水道町、改代町）へまっすぐ伸びていきます。

赤城神社のみどりがアイストップとなっています。

江戸時代に馬場として利用されていた細長い街区が現在も残っています。東西方向の道路もこの部分だけ幅員が狭まっており、景観のアクセントとなっています。

二つの道路に接する大規模な敷地があります。公開空地や通り抜けられる通路もあり、今までは違ったまちなみが生まれています。



1. 直線道路の見通し



平坦な地形に、幅員の広い直線道路が通り、非常に見通しが良いです。特に東西方向の道路では、かなり遠い先まで見通すことができます。また、南北方向の道路では、南側の赤城神社や斜面緑地がアイストップとなっています。

2. 地場産業のある景観



印刷製本業を営む大小規模の工場が集積しており、人やフォークリフト等による動きのある景観が特徴となっています。夜間や休日のまちなみの寂しさの改善や、潤いの創出が望まれます。

3. 大規模敷地とマンション



エリアの東側には大規模敷地が多くあります。空を大きくとった超高層ビルもあり、従来の景観から大きく変化しつつあります。また、南側の斜面地の周辺では、ゆたかな植栽を持つ中高層のマンションが建ち並び、落ち着いた景観となっています。

景観形成の目標

地場産業と住環境とが調和したまちなみへ

印刷製本業が発達したまちに共同住宅が増加してきていることを踏まえ、地場産業と住環境とが調和したまちなみを創出する。

景観形成の方針

1. 地場産業と住環境とを調和させる

景観形成の考え方

地場産業のまちなみ特有の夜間や休日の際の寂しさを改善し、住機能との調和を図っていく。

具体的な方策

- 隣地境界線沿いや道路沿いでは積極的に緑化を行う
- 夜間景観に配慮し、道路沿いには照明等を設置する



生業とみどりがともにある

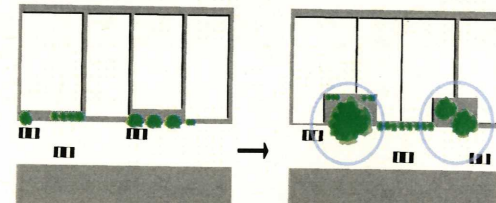
2. みどりを積極的に増やす

景観形成の考え方

寺社・公園などまとまったみどりの代わりに、まちなかに積極的にみどりを増やし潤いのあるまちなみをつくる。

具体的な方策

- 大規模の計画では、まとまった緑化を行う
- 中・小規模の計画では、道路沿いを積極的に緑化を行う



みどりをまとめることで効果を増す

3. 見通しの良い道路景観をつくる

景観形成の考え方

平坦な地形や直線道路などでつくられる見通しの良さをいかす。

具体的な方策

- 袖看板などは、見通しを妨げない工夫をする
- 崖地や神社のみどりへの眺めを妨げないよう配慮する



建築物の配置や形態を工夫して見通しを守る

2-2 飯田橋・大曲エリア

飯田橋駅前から神田川が大きく屈曲する大曲付近までの、業務・商業・工業・居住機能の混在したエリアです。飯田橋駅前では、幹線道路の五叉路の上にデッキがかかっており、周囲の建築物には屋外広告物が数多く設置されています。都心のオフィス街にふさわしい、すっきりとした景観が望めます。また、神田川は目白通りや首都高速によってまちと分断されています。

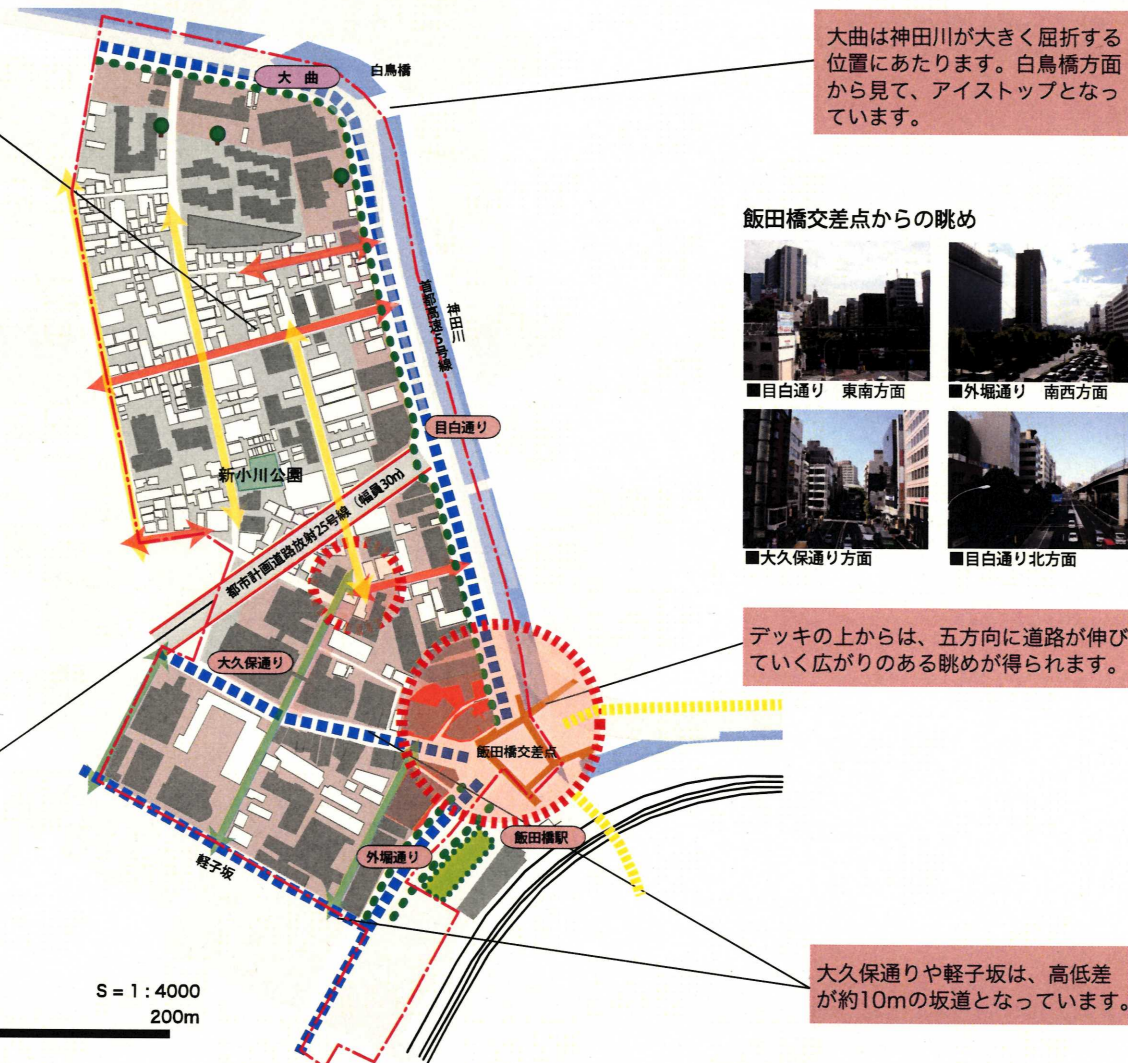


景観特性

共同住宅や一戸建ての住宅、店舗、小規模オフィスビル、印刷製本工場などが混在しており、特徴に乏しいまちなみとなっています。

- 【凡例】
- 公園
 - 保護樹木
 - 連続するみどり
 - まとまったみどり
 - 景観上重要な道路
 - 幹線道路
 - 都市計画道路
 - エリア内の道路 (方向別色分け)
 - 多叉路の交差点
 - 6階以上の建築物
 - 高層オフィスビル街区
 - エリア境界

既存のまちなみと調和した幹線道路の整備と、快適な歩行者空間の創出を図る。



大曲は神田川が大きく屈折する位置にあたります。白鳥橋方面から見て、アイストップとなっています。

飯田橋交差点からの眺め



デッキの上からは、五方向に道路が伸びていく広がりある眺めが得られます。

大久保通りや軽子坂は、高低差が約10mの坂道となっています。

1. 駅前の景観



幹線道路が集中する飯田橋駅前には、人通り、車通りの多い五叉路の交差点となっています。交差点の上にかかる歩行者専用のデッキからは、幹線道路を見通すことができ、開放的な眺めを得ることができます。周囲の建築物には、すっきりとした外観や全体としての統一感が望めます。

2. 神田川沿いの幹線道路



エリアの東側から北側を通る目白通りは、歩道が狭く高層建築物の圧迫感を感じます。また、歩道の反対側には高架の高速道路が通り、閉塞感もあります。しかしながら一部の大規模建築物では、低層部を開放的につくりとしているものもあり、まちなみにゆとりを与えています。

3. 視線が集まる交差点



エリア内には、神田川に並行、直交する道路と、外濠に並行した道路が交わりアイストップをつくりだしている場所があります。こうした場所では、建築物の意匠や緑化などによる配慮が望めます。

景観形成の目標

都心のオフィス街に相応しい快適で落ち着いたまちなみへ

地域の顔となる飯田橋駅前の整然としたオフィス街のまちなみを創出するとともに、開放感やみどりの潤いがある快適な歩行者空間を創出する。

景観形成の方針

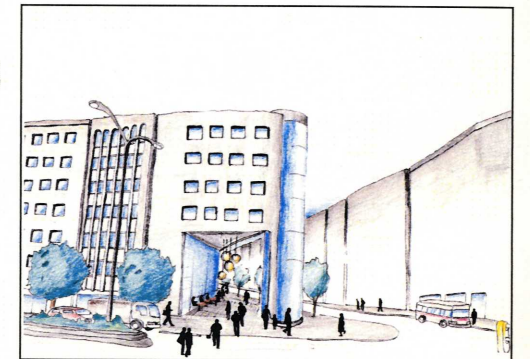
1. 飯田橋駅前をオフィス街に相応しい落ち着いた景観にする

景観形成の考え方

交通の要所である飯田橋駅東口およびデッキの上からの眺めを、オフィス街に相応しい落ち着いた景観とする。

具体的な方策

- 駅前の角地に位置する建築物は、まちなみのシンボルとなることを考慮した意匠とする
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する



壁面位置や高さを周囲と合わせつつ、角地をいかしてアクセントをつける

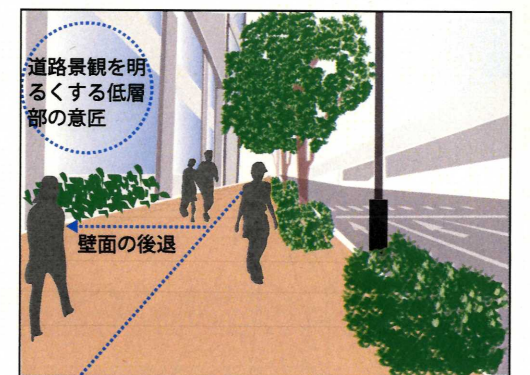
2. 目白通り沿いでは快適な歩行者空間をつくる

景観形成の考え方

特に高架の高速道路と高層ビルに挟まれ「圧迫感」「閉塞感」を感じる目白通り沿道では、歩道に対してのゆとり、明るさを提供するように配慮し、快適な歩行者空間をつくる。

具体的な方策

- 壁面の位置は後退させ、道沿いにゆとりをつくる
- 低層部は透過性の高い素材を使用し、また、積極的に緑化を行う
- 周囲と調和した壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 夜間景観に配慮した照明計画とする



快適な歩行者空間をつくる

3. アイストップをいかした景観をつくる

景観形成の考え方

アイストップとなる道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分などをいかした景観をつくる。

具体的な方策

- 道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分では、視線の集まることを考慮した意匠とする
- 道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分では積極的に緑化を行う



道路基盤の特徴をいかして、みどりを配置する

